

## 平成 21 年度食品健康影響評価技術研究領域候補（案）

## I 食品中の化学物質等の健康影響評価手法に関する研究領域

国際的な技術的動向を踏まえ、食品中の化学物質等の健康影響評価の効率化・高度化に資するものであって、以下のような研究成果が期待できるものであること。

- ① 合理的な安全係数を設定するための動物種差、ヒトの個人差を考慮した薬物動態の解析による新たな健康影響評価手法の開発  
(キーワード： *in vitro* 実験、動物試験代替法、生体試料を用いた暴露評価手法等)
- ② 胎児期、発達期の暴露による健康影響評価手法の開発  
(キーワード： 発達障害、中枢・末梢神経機能、生殖機能、代謝・内分泌調節機能)
- ③ 低用量暴露における健康影響評価手法の開発  
(キーワード： ビスフェノール A 等、毒性試験、疫学調査)

## II 食品に起因するかび毒・自然毒、有害微生物等の健康影響評価手法に関する研究領域

食品に起因するかび毒・自然毒、有害微生物等の健康影響評価の効率的・効果的な実施に資するものであって、以下のような研究成果が期待できるものであること。

- ① かび毒・自然毒の発生要因の解析、摂取形態、暴露データ収集等による健康影響評価手法の開発
- ② 有害微生物等の特性解析と健康影響評価手法の開発  
(キーワード： 動植物由来微生物、微生物の特性、測定法、疫学調査)

## III 新たな危害要因の予測や新しい健康影響評価手法に関する研究領域

新たな危害要因の予測や新しい健康影響評価手法の開発に資するものであること。

- (キーワード： 輸入食品中の汚染物質、メラミン等、ナノテクノロジー応用食品、照射食品、遺伝子組換え食品等)

## IV リスクコミュニケーションの推進に関する研究領域

リスクコミュニケーションの対象（地域性、年齢、職種等）を考慮した介入試験による効果分析手法の開発に資するものであること。

- (キーワード： 情報提供手法、副教材・教育資料等)